

営農君のいきいきアドバイス

ミニトマトのプランター栽培に挑戦 ～実際に栽培してみました～

ミニトマトのプランター栽培についてご紹介します。せせらぎNo.160(2023年10月発行)で紹介したイチゴと異なりプランターは大きめで、かん水管理や支柱を使用して誘引するなど手間はかかりますが、甘い果実が収穫できます。



1. 用意するものと植え付け

今回、プランターは幅50cm、奥行32cm、深さ22cm、土容量18ℓのものを用いましたが、支柱を立てるため大きめで深さ30cm以上のものが望ましいです。その他に苗(1ポット)、肥料入りの培養土を用意します。苗はJA各経済センターで4月下旬から販売されているものを用いました(品種名「アイコ」)。他には支柱やポリヒモが必要となります。

プランターに培養土を入れ、中央に苗を植え付けます。苗と短い仮支柱をポリヒモで結び、苗を支えます(写真1)。プランターは日当たりがよく、風通しのよい場所に置き、土が乾かないように適時かん水してください。



写真1 苗の植え付け

2. 支柱立てと仕立て

株が成長してきたら、支柱を立てて枝を誘引します。ここではプランターの前後に交差させる方法をとりました(写真2)。前の支柱はやや斜め後ろに立てて枝を誘引し、後ろの支柱は前の支柱の支えとし、上部で倒れないようにビニタイなどで結びます。仕立て方はいろいろありますが、3本仕立て(主枝と側枝2本)としました。第一花房の直下の側枝(写真3)と第四花房の直下の側枝を伸ばし、前側の支柱に適時誘引しました。そして、伸ばした主枝と側枝は支柱の上部で摘心し、その他の側枝は若いうちに除去します。

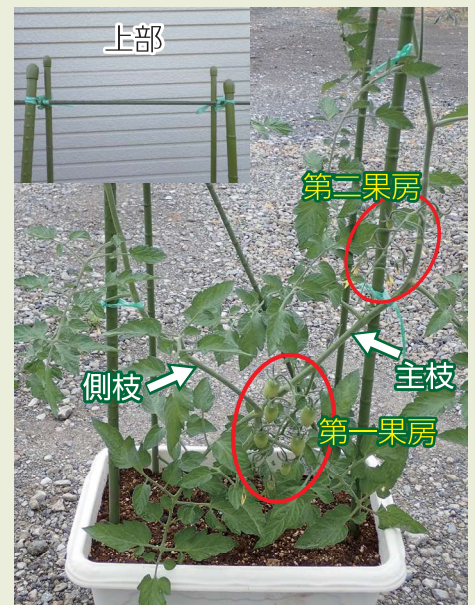


写真2 支柱と仕立て

3. 栽培管理

一番下の果実が結実するようになったら、化成肥料をひとつまみ施用します。その後、6月中下旬頃から7～10日ごとに液肥(ハイポネックスなど)をかん水がわりに施用します。株が大きくなってくるとプランターの土が乾きやすく、風が強くと支柱が倒れることがあるので注意してください。病害虫ではアブラムシ類、テントウムシダマシ、うどんこ病などが発生することがあります。

4. 収穫

完熟してから収穫しましょう。プランターのミニトマトは土壤水分が少なめの環境で育つため、甘い果実に仕上がります。生育後半に果実が割れる生理障害の「裂果」(写真4)が生じることがあります。特に雨が降ると発生しやすくなります。今回の栽培では168個の果実が収穫できました。そのうち「裂果」の果数は36個でした。



写真3 第一果房直下の側枝



写真4 裂果